

# OISCA

—人と育む、地球といきる—



[TOPIC]

## 企業の社会貢献が向かう先

～オイスカはどう協働できるのか？～

JULY | 7  
2023



## 子どももお母さんも笑顔に！ ～就学前の子どもたちの学びの場を提供～



ゴール4の2つ目のターゲットには「2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケアおよび就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする」とあります。

オイスカが、就学前教育の場の提供に特に力を入れている国の一つがフィリピン。研修センター周辺地域に日本からの支援で建てられた「デイケアセンター」と呼ばれる保育所には、地域の子どもの元気な声が響いています。

デイケアセンターの役割は、入学前に集団行動に慣れ、スムーズに学校生活がスタートできることにあります。特に同国では、学校教育の授業が英語で行われるため、簡単な英語の読み書きができるようになることも入学前の準備として重要で、これもデイケアセンターに求められる役割の一つです。

また、子どもをデイケアセンターに預けている間、お母さんに時間のゆとりができ、自宅での収入につながる仕事をしたり、外に働きに出たりする機会が得られるといったメリットもあります。

デイケアセンターの建設や運営のサポートをすることで、子どもの健やかな成長と家族の豊かな生活の実現に貢献していきます。



日本からの支援で建てられたデイケアセンター(アブラ州)



## 「海の日」に想う

五月五日、東京・府中市にある大國魂神社の例大祭に参拝しました。四年ぶりに行われたこともあり、大鳥居から社殿へと向かう参道脇をはじめ境内には露店が所狭しと並び、法被姿の人や大勢の参拝客で賑わっていました。本殿の前庭には出番を待つ八基の神輿が据えられ、神輿を煽る人々の歓喜の音が聞こえてきそうでした。

祭典後、宮司からこの「くらやみ祭」最初の行事である海上禊祓式の模様が語られました。四月三十日、神職一行は小舟で品川沖に出て身を清め、さらに清めの汐水を汲んで持ち帰り、大祭期間中の朝夕潔斎時に使用するとのこと。タイパもコスパも関係ない惟神の世界です。

ところで、七月十七日は「海の日」という祝日です。当初は七月二十日でしたが、平成十三年の祝日法改正によって七月の第三月曜日になりました。

七月二十日は、明治天皇様が東北地方御巡幸の帰途、灯台巡視船「明治丸」で青森から函館を経由して横浜に帰着された日です。それを記念して昭和十六年、「海の記念日」として制定され、平成八年にこの日を「海の日」と制定しました。

日本は四方を海に囲まれた海洋国家で、豊饒な海と安全な海なくしてわが国の繁栄はあり得ません。そのことを戦前の子どもたちは『われは海の子』という文部省唱歌を歌うことよって学んでいました。一番の歌詞は「我は海の子白波の 騒ぐ磯部の松原に 煙たなびく苦屋こそ 我が懐かしき住家なれ」、七番は「いで大船に乗出して 我は拾わん海の富 いで軍艦に組みあて 我は護らん海の国」です。ところが七番の歌詞は、国防思想や軍艦など戦争をイメージさせるとしてGHQの指示により削除。しかし、その精神は今も生きています。「海の日」には雄大な風景と無限の恵みに感謝しましょう。



# OISCA JULY 2023 | 7

## Contents

- 04 OISCA NEWS 海外／国内
- 06 オイスカ便り 首都圏支部
- 08 TOPIC **企業の社会貢献が向かう先**  
～オイスカはどう協働できるのか?～
- 10 今月のこの人 関西研修センター 研修生 メキシヴェリン・エルヴィア・ビンティ・マロシン
- 12 OISCA SQUARE オイスカ歴史さんぽ／OISCAレストラン／お！ススメOISCA
- 14 INFORMATION 夏募金のお願い ほか

### What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持って活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

### OISCAという名称の意味

O rganization	機構	人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。
I ndustrial	産業	
S piritual	精神	
C ultural	文化	
A dvancement	促進	

## 海外 オイスカ中華民国総会 オイスカ活動50年の大祝賀会を開催 日本からも25名が台湾を訪問

4月8日、オイスカ中華民国総会（以下台湾総局）の設立50周年を祝う祝賀式典が台北市内で開かれ、約1千名の会員らが参列。日本からもオイスカ・インターナショナルの中野悦子総裁、中野利弘副総裁をはじめ、長年台湾との交流を重ねてきた静岡県支部の会員を中心に25名が参加しました。翌9日には新北市貢寮地区で記念植樹を実施、公園として整備が続いているエリアに日台の参加者らが協力し、85本の苗木を植えました。台湾におけるオイスカ活動は、日台の国交断絶の翌年1973年に、創立者・中野

與之助翁が多くの支援者を伴って台湾へ赴き、各界の指導者と、民間レベルの交流や相互の学び合いの重要性を協議した時から始まりました。以来、台湾総局では、主に農業分野の人的交流に力を入れ、農業に従事する青年たちが毎年日本を訪れ、視察研修を通じて学んだ知識や技術を自らの農業経営に活かしてきました。今回、日本からの一行が行政院農業委員会の杜文珍副主任委員（農業省副大臣）を表敬訪問した折には、台湾の農業開発にオイスカが50年にわたり貢献してきたことへの謝意が示されました。



上/これまでの台湾の多くの人々がオイスカ活動に参加してきたことに加え、東日本大震災の折に温かい支援をいただいたことに謝意を述べる中野悦子総裁  
下/50周年記念のお揃いのパーカーを着て記念植樹をする参加者ら

## 国内 富山県支部 オイスカの今を知る活動報告会開催 人材育成事業とフィリピンの現状を報告

5月24日、オイスカ富山県支部が恒例の活動報告会を富山市内で開催し、会員を中心に43名が参加しました。海外からの研修生を受け入れ、農業指導を行う西日本研修センターの豊田敏幸副所長が、オイスカの人材育成事業について講演。これまでの研修生たちの母国に帰ってからの活躍、オイスカファミリーのネットワークの大切さ、今年9つの

国と地域から来た研修生の活気ある日々の生活や研修の様子も紹介されました。また、過去に支部が支援し、植林活動を進めてきたフィリピンのネグロス島からは、渡辺重美バゴ研修センター所長がオンラインで現地の様子を伝えました。森が育っている映像を目にした参加者からは「再訪して現地の様子を見た」といった声が聞かれ、支



日本で学んだ研修生たちが母国に帰って活躍する様子も紹介された

## 国内 中部日本研修センター センターの無農薬野菜がおいしい給食に！ 子どもたちと研修生との交流も

5月25日、中部日本研修センターで育てた無農薬野菜が、愛知県みよし市の学校給食（小中学校12校と公立保育園6園）に提供され、これに合わせ、同市立三吉小学校で研修生との交流会が行われました。みよし市は研修センターがある豊田市に隣接しており、今回の学校給食への野菜提供は、オイスカみよし推進協議会の働きかけにより実現した

ものです。学校関係者や保護者の方にも安心してもらえるよう、センターでの野菜栽培の様子を動画にまとめて公開するなど準備を進めてきました。

この日、センターから届けられたニンジンとダイコンは、サラダとなって提供されました。研修生と共に三吉小学校を訪問していた筑田明生副所長は、子どもたちが「おいし



研修生と会話を楽しみながら給食を食べる子どもたち

い」と笑顔で食べている様子を見て、「初めての試みで大変なことも多かったが、子どもたちが喜んでくれてよかった」と安堵した様子で語っていました。



## 国内 日本NGO無償資金協力訪日研修 タイから21名、インドネシアから17名が 自立した活動を目指し日本での研修に参加

外務省の日本NGO無償資金協力の支援を得て、タイとインドネシアで進むプロジェクトの取り組みとして、訪日研修が実施されました。

※各プロジェクト詳細は下の囲み参照

### タイ

訪問地…宮城県  
日程…5月12〜16日

タイ・ラノン県からは、事業終了後の活動の自立を目指し、活動地の漁村住民リーダーや現地の専門家など21名が訪日研修に参加しました。訪問先の宮城県名取市では、「海岸林再生プロジェクト」で、全国から集まったボランティアと作業に汗を流したほか、(有)MARTA、(株)セン

シン食品などの水産加工会社や、ゆりあげ港朝市協同組合の視察を行いました。

名取市は北限のしらす産地として、その加工・販売に力を入れており、大きな工場で釜茹でする加工の過程を学んだ参加者からは「鍋で茹でる場合の時間や茹で方を教えてほしい」など、すぐに実践するための具体的なアドバイスを求める姿も見られました。

最終日にはオンラインのトークイベントを開催し、現地での活動紹介のほか、訪日研修での学びを発表。マングループ由来の製品開発と販売を行う女性リーダーは、自信に満ちあふれた様子で製品を紹介



上/カヌー体験時の安全指導を学ぶ(亘理町B&G海洋センター)

下/ゆりあげ港朝市の視察



上/八女市星野村での研修風景。棚田の視察も  
下/神楽保存会との交流も行った

介しました。また、村を離れて都会で仕事をしていたという若者が、村に戻って魅力ある地域づくりに力を注いでいるといった経験を話すなど、プロジェクトの主役である地域住民からの報告に重きを置いたイベントとなりました。視聴者からは「村の住人が主体的に取り組んでいる様子が、生き生きと話す姿から伝わってきた」といった感想が寄せられました。

### インドネシア

訪問地…福岡県、長崎県  
日程…5月17〜26日

インドネシアの西ジャワ州のチプタグラルからは、村の男性ら17名が来日し、福岡市内に滞在しながら、農業分野の視察研修などに参加しました。長崎の種苗会社での研修のほか、村には伝統的な演劇

が伝わっていることから、日本の神楽を保存する団体と交流を行いました。また、プロジェクト対象地域では棚田でのこめ作りが盛んなことから、似た景観を持つ八女市星野村や東峰村、うきは市を訪れ、どのような形で観光振興がなされているかを視察し、現地に持ち帰って今回の学びをどう共有し、現地での活動へ活かすかについての検討も行われました。

20日には西日本研修センターで活動報告会を開き、地元の方々を中心に現地で行われている本事業の紹介や、今回の訪日研修の様子などを報告しました。熱心に質問する参加者の姿が各訪問先で見られ、この事業の持続的な発展に向けたよい機会になったことがうかがえました。

## タイ

### ラノン県のマングローブ林再生を通じた社会的弱者層生計向上プロジェクト

タイ・南部ラノン県の4つの地域を対象に、マングローブ林の再生と住民の生計向上を目指す取り組み。主な収入を漁業に頼ってきたが、漁獲高が減る中、より付加価値の高い加工品やマングローブを活用した染め物、お茶や石けんなどの製品開発・販売により、安定した現金収入を目指す。また、豊かに蘇ってきたマングローブ林を活かし、エコツーリズムにも力を入れていく予定。

## インドネシア

### 伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業

インドネシア・スカブミ県の山岳部で伝統的な生活様式を守って生活をする共同体チプタグラルが活動の対象地。現金収入の獲得手段が限られていることから、教育や医療などの基本的な社会サービスを受けられず、観光客などが外部から持ち込んだゴミの問題にも直面。適切なゴミ処理や各種農産物の生産と販売支援を通して、彼らの生活環境改善と生計向上を目指す。



コロナ禍でも「海の森公園」森づくり活動を実施(22年6月11日)

首都圏支部は、東京・神奈川・千葉・埼玉の1都3県の支部・支局を統合した広域支部として2004年に発足しました。統合した4つの支部・支局の歴史は古く、1975年に神奈川県支部、77年に埼玉県支部、83年には千葉松戸支局が設立。東京支部は前身の旧東京支局の82年発会を経て88年に支部として設立され、それぞれ活発な活動を展開し

てきました。旧神奈川県支部が80年に開始したタイ北部のスリン県での植林活動は、01年の第20次植林ボランティアの派遣までに延べ1220人が参加し、約350haの緑化を行ってきました。20年間の植林活動に加えて、87年には1600万円の募金を集めて「プラサート農業研修センター」を建設。また、横浜市や川崎市など行政の協力により、中古の救急車、消防車各2台を寄贈するなど、同県のインフラ整備にも大きな役割を果たしてきました。このような現地に寄り添った息の長い活動が二国間の信頼関係につながり、現在同国で取り組まれている「東北タイ環境教育プロジェクト」や、「北部タイ環境保全プロジェクト」などの礎になっ



首都圏支部 会長  
湧井 敏雄

たといえます。オイスカの活動は、単に植林や緑化を行うだけではなく、新たな農林業の開発や漁業の復活などで地域住民の生活向上を図ることにより、持続可能性を担保する粘り強い取り組みが真骨頂です。ウズベキスタンで進む「砂漠化防止プロジェクト」は、地政学的に難しい地域における日本のプレゼンスを高める取り組みにもなりますので、支部として

成功に向けた応援をさせていただきます。現在支部の活動は、旧支部・支局のDNAを引き継ぎながら、広域かつ都市型の支部としての新しい活動を模索している状況です。コロナ禍に加え、ウクライナでの戦乱など、残念ながら世界は先の見通しにくい時代に入っています。その中においても、オイスカが60年にわたり追求してきた持続可能な地球環境の維持・再生の取り組みが、世界をより良い方向に導く最良の道筋であることを確信して、活動を進めて参ります。

### 支部概要

首都圏支部は、東京支部、神奈川県支部、埼玉県支部、千葉松戸支局の4つを統合して、2004年に発足しました。23年度現在の会員数は、法人会員141件、個人会員148件、マンスリー会員34件の合計323件です。

本部と一体となって活動を推進し、国内においては「富士山の森づくり」、「海の森公園」ボランティアなどの緑化・環境保全活動や「森のつみ木広場」などを通じたオイスカへの理解を広げる啓発普及活動、また海外での植林や「子供の森」計画子ども親善大使などの国際交流活動、技能実習生の対応を通じた人材育成活動の一端も担っています。

# オイスカ 便り

全国の支部や支援組織を  
ピックアップして紹介します

今回は

## 首都圏支部

### 本部と一体の活動を基本に オイスカ活動の啓発普及を進める

スカイツリー  
浅草寺、雷おこし!

# 近況

## REPORT

### コロナ禍でも活動を推進 チャリティバザーも再開

3年余にわたるコロナ禍により、首都圏支部の活動は大きな負の影響を受け、2020年度はほとんどの活動がストップし、なんとも忸怩たる思いでした。

21年度は、17〜20年度まで支部会長として活動をリードした大久保敏治氏に代わり湧井敏雄氏が新会長に就任。この年はオイスカ創立60周年にあたり、10月6日に東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、「オイスカ60周年記念国際シンポジウム」が本部主催で開催されました。

テーマは「世界課題の解決に風穴を開ける―BE the SOLUTION!」。世界中で気候変動の影響と思われる大規模災害が頻発し、持続可能な地球環境の維持が喫緊の課題となっています。この



多くの来場者で賑わうチャリティバザー会場(22年10月)

世界課題解決のため、30年を達成目標期限とした「オイスカ10カ年計画」を策定し、本シンポジウムでの発表を活動のキックオフとしました。支部は、この10カ年計画の柱の事業となるウズベキスタンの「沙漠化防止プロジェクト」のスタート資金として100万円を寄附し、引き続き支援活動を推進していくことにしています。

毎年春と秋の年2回開催してきたチャリティバザーは、売上金が「子供の森」計画や国際協力活動の貴重な支援財源となります。バザー品は、オイスカ国際活動促進国会議員連盟所属の議員有志の皆さんからご協力をいただき、多くの法人・個人の皆さまが会

員となつている豊洲市場青果連合事業協会のご支援で新鮮な野菜、果物なども盛りだくさん。21年にコロナ禍の合間を縫って2年ぶりに再開し、翌年も10月に開催することができました。それぞれ年一回の開催となりましたが、売上金は、21年は23万3458円、22年には31万3941円となりました。会員や地元の皆さんとの絆をつなぎ、オイスカ活動への理解を深めていただく機会と位置付けて、これからも継続して取り組んでいきます。

今年度は、「富士山の森づくり」活動「海の森公園」樹林育成・保全作業などの森づくり活動も再開して、支部活動を活性化させていく予定です。

## 東京の台所「豊洲市場」に行ってみて!

東京のたくさんの名所の中で、今回ご紹介するのは「豊洲市場」です。2018年10月に築地から移転し、世界最大級(旧築地市場の約2倍)の鮮魚・海産物類、果物・野菜などの青果類の卸売り市場となりました。水産卸売場(7街区)、水産仲卸売場(6街区)、青果(5街区)の3つの市場棟から構成され、一般や観光客にも一部を公開しています。営業時間は月曜から土曜(祝日、休市日を除く)の午前5時から午後3時。各棟のギャラリーウィンドウからは、魚介類や青果類の卸売り場が見渡せま

す。早起きすれば、「見学者デッキ」から迫力あるマグロの競りの模様を間近で見ることができます。

お買い物目的であれば、水産仲卸売場棟の「魚がし横丁」がおすすめ。プロ御用達の大商店街で、約70店舗が軒を連ねています。また、新鮮な魚介類のお得な絶品グルメも堪能できます。来年2月には新たな「千客万来施設(仮称)」がオープン予定。江戸の街並みを模した商業施設と温泉施設・ホテル棟の建設が進んでいます。ますますの魅力アップが楽しみです。

首都圏支部事務局長 藤田幸三



豊洲市場の  
絶品グルメを  
堪能してみてください!



提供：東京都中央卸売市場

# 企業の社会貢献が向かう先

## ～オイスカはどう協働できるのか？～

オイスカの国際協力活動は、草創期からさまざまな方々の支援で進められてきました。企業による支援は時に、新規プロジェクトの立ち上げや大規模な植林プロジェクトなどを進める上で欠かすことのできない大きな力となっていますが、一方で、企業側のニーズの変化も激しく、その対応の難しさに直面することも。昨今の企業の社会貢献の動向を紹介するとともに、これからの新しい協働の形を探ります。



大規模植林の中でも mangrove 植林は人気が高い(フィリピン)

### 持続可能性を求めて

昨年度、オイスカに新たな部署が誕生しました。その名称は Global Sustainability Mission。通常は略して G S M と呼んでいます。ここにも使われている「グローバル」や「サステ

ナビリティ」といった言葉は、近年、オイスカを会員として支えてくださっている企業でも、担当部署の改編や名称変更時に使われるケースが多くなります。例えば、「地球環境室」「社会貢献室」「CSR推進部」などが、「サステナビリティ推進室」「グ

ローバル経営企画室」などに変更されています。

国連が掲げる、世界共通の目標である S D G s (Sustainable Development Goals) Ⅱ 持続可能な開発目標への取り組みが、企業イメージを左右する近年、「サステナビリティ」を掲げることは自然な流れといえるかもしれません。

### 脱炭素へ向けた動き

昨今、企業からの問い合わせで急増しているのが、カーボンオフセットやカーボンクレジットに関するもの。日本政府が掲げた「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」との目標を受け、海外での大規模植林などを支援することで、自社で排出するCO<sub>2</sub>を、植林地で吸収されるCO<sub>2</sub>で相殺したいというニーズが高まっています。

特に mangrove は、土中にも多くのCO<sub>2</sub>を吸収固定していることが知られており、森全体として捉えた場合、ほかの樹種の森以上のCO<sub>2</sub>を吸収する力があることから注目されていますが、オイスカの現場では、カーボンクレジットの導入事例はまだありません。

その理由としてまず挙げられるのは、CO<sub>2</sub>の吸収固定量を算出するのが困難だという点です。日本の山に多く植えられているスギやヒノキとは

### 企業の社会貢献 30年の動き

上段には世の中の動きと企業の社会貢献の流れを、下段では当時のオイスカの活動を紹介します。

2003年

#### CSR経営の広がり

経済同友会が企業白書で「社会的責任経営」の実践を提唱。2000年代に企業の不祥事が続いたことも背景となり、「企業の社会的責任」としての社会貢献が広がった。

2000

90年代に広がった企業や団体の海外ボランティア派遣が下火に。より近い現場での体験活動を求める声が高まり始める。

1995年

#### 阪神淡路大震災

被災地でボランティア活動に参加する人が増え、「ボランティア元年」と呼ばれるように。

関西研修センターを拠点に震災ボランティアを募り、炊き出しなどの支援を行った。また、労働組合を中心に、「顔の見える支援」を求める声が高まり、海外への植林ボランティア派遣の熱が高まりを見せる。

1992年

#### 地球サミット開催

ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた「環境と開発に関する国際連合会議」を契機に地球環境問題を考え、行動する機運が高まった。

1990

オイスカも地球サミットに参加し、前年、創立30周年を機にスタートした「子供の森」計画の重要性について発信。翌年、地球サミット賞を受賞。

違い、マングローブの場合は国や地域の樹種ごとの、吸収量の算定に必要な係数がほとんど算出されていないのが実情です。係数を調べるためには、サンプルとなるマングローブを掘り起こして計測する必要があります。莫大な手間と経費がかかります。また、過去に測定された事例から分かるのは、場所によって吸収量にばらつきが見られるため、正確な数値を出すには、植林間隔と本数、生存率などの測定、さらには今後吸収するCO<sub>2</sub>量も含めた予測を立てる必要があります。かなり難しいということ。

もう一つは、貧困に直面した地域、森林劣化により自然災害の被害が増えている地域などで進められているプロジェクトが多く、そうした活動地においては、住民からのニーズとして、CO<sub>2</sub>の吸収固定が挙がることはほとんどないという点。オイスカでは、住民自身が植林をし、その森によって生活が豊かになり、地域全体が災害の脅威から守られることを目指しているのです。

カーボンクレジットやカーボンオフセットを一番の目的に据えてはいなくても、プロジェクトでは、新たな植林や森の保全によりCO<sub>2</sub>の吸収固定は進んでいます。その量が簡単に算出できるような手法が確立されたら、オイスカのマングローブ植林プロジェクトでも企業のニーズに合わ

せた計画が立案できるようになるかもしれません。

## コロナと社会貢献

また、コロナ禍における社会貢献活動に新しい動きも出てきています。オイスカでも海外へのボランティア派遣はもちろん、国内での森づくり体験活動などの多くが中止となり、社員や従業員のボランティア参加の機会を設けてきた企業では、現場に足を運ばなくてもできる支援の形を模索したり、在宅やオンラインでもできる活動を求める声が聞かれたりするようになりました。

社員とその家族を対象にした「森のつみ木広場」をオンラインで開催したり、つみ木製作の最後の工程となる磨き（紙やすりで滑らかな状態に仕上げる）を体験してもらったりと、さまざまな工夫をしながら活動を進めてきました。コロナ禍前のような取り組みが戻りつつある現在も、在宅でできる活動へのニーズがあり、



コロナ禍からスタートした農業ボランティアは今も続いている

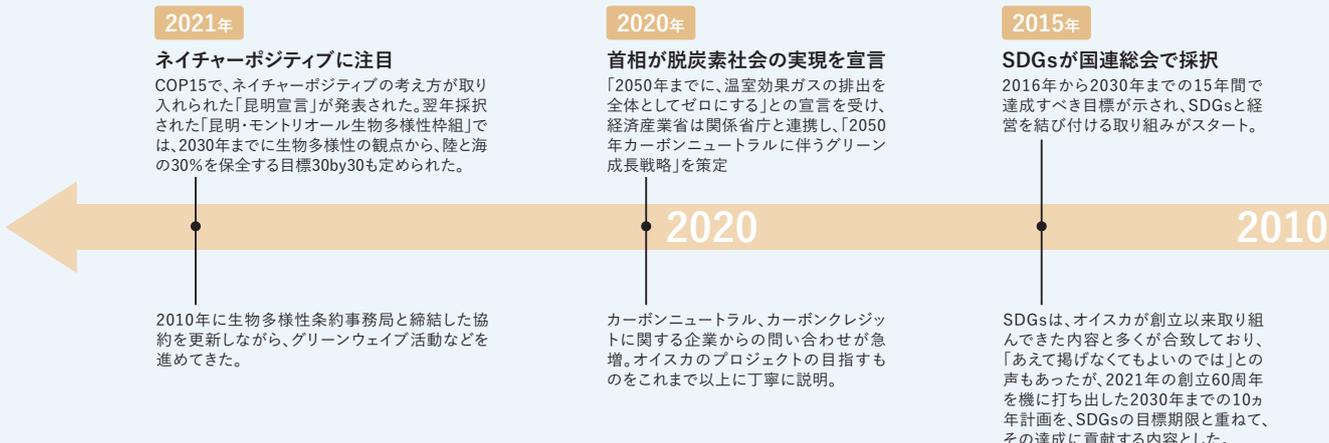
ベルマークの集計ボランティアを継続している企業もあります。

また国内研修センターでは、研修生の受け入れができなかった期間、農場管理などを担うボランティアを募集し、個人参加はもちろん、多くの企業からも社員や従業員の皆さんに参加いただきました。

## 企業の社会貢献のこれから

企業の社会貢献活動は、世の中の変遷とともに多様化しており、最近では国内の子どもの貧困やネイチャーポジティブを前面に出した活動への支援を希望する声が寄せられることもあります。オイスカは国内外の現場で、老若男女を対象としたさまざまな取り組みを展開していますが、必ずしも合致する活動があるわけではありません。プロジェクトの受益者となる人々のニーズを優先しながらも、支援側のニーズも汲み取り、マッチングする努力はこれまで以上に求められることになりました。

何よりも重要なことはステークホルダーとの対話を重ねること。コロナ禍ではオンラインでのやり取りが主流となりましたが、移動制限がなくなった今、プロジェクト地の視察や活動を担う住民との交流などを繰り返しながら、お互いの理解を深めた先に、よりよい形での社会貢献活動を実現させたいと考えています。



# 今月のこの人

メキシヴェリン・エルヴィア・ビンティ・マロシン (愛称: メキシ)

関西研修センター 研修生(家政)



日本人との  
会話が一番  
楽しいです!

## 日本人との交流を通じて 新しいことに挑戦したい!

大阪の北部に位置する関西研修センターは、自然豊かな山間にあり、1983年の開所以来、豊能町から無償で借り受けている旧吉川中学校を活用して運営しています。現在は技能実習生の受け入れを中心に業務を行っています。昨年度からはマレーシアから家政研修生を受け入れています。地元のボランティアグループなどの交流もさかに行われている同センターで、充実した日々を送るメキシさんに、日本での生活について聞いてみました。

訪日研修生となった経緯を聞か

### 教えてください

私は2018年7月にマレーシアのサバ州にあるKPD/オイスカ青年研修センターの研修生となり、19年から22年まで養鶏スタッフとして働きました。以前からテレビやYouTubeなどで日本を紹介する映像を見て関心を持っていたこともあり、ぜひ日本でさまざまな知識や経験を得ながら、文化や生活についても学びを深めたいと、コロナ禍も落ち着き、渡航できるようになったタイミング

で訪日研修を希望しました。

初めは、サバのセンターで養鶏に携わっていたことから、農業研修をしたいと思っていました。一方で、将来母国でパン屋を開きたいという目標も持っていたので、センターの先生にアドバイスをもらい、昨年5月から家政研修生として、関西研修センターで学ぶ機会をいただくことができました。

——日本のセンターでの生活はどうですか

関西研修センターでは、主に日本の料理やお菓子の作り方を学んでいます。特に朝食は私が献立から担当をしていて、必要な材料を考えて、家政を教えてくださいとお願いしている清水すみか先生と一緒に買い出しにも行っています。センターの近くには「妙見山」という登山客もよく訪れる山があり、春は桜を、秋には紅葉を見ることがができます。買い物などで外出する際に、日本の四季を身近に感じられることができて、とても良いところだと思っています。

そして何より、すみか先生をはじめ、センターの先生方が皆さん親切で優しいです。皆が家族みたく、私はセンターの清水利春所長を「おとうさん」と呼び、おとうさんが買ってきてくれる果物を毎朝食べています。



牛乳パックで  
びっくり箱を  
作りました!



右/日本語指導の高木満子先生とゆずり葉会、地元の方と記念撮影  
左/月に一度の交流会「ふれあいサロン」に参加。マレーシアの技能実習生と3人で民族衣装を着て歌を披露した

日本のスイカはマレーシアのものより甘くておいしいので、夏と一緒に食べるのが楽しみです。

また、先生方は家政や日本語を教えてくださいただでなく、これまで福岡県や兵庫県の淡路島など、さまざまな場所に連れて行ってくださいました。もし機会があれば、北海道に行つて、スキーにも挑戦してみたいです。センターでは毎年冬にスキーに行っているようですが、私は昨冬、大阪マラソンの練習で行けなかったのです。今年はずいぶん行ってみたいですね

——新しいことにたくさん挑戦していますね

日本人とたくさん話したり交流を通して、新しいことを教えてもらったり、体験することがとても楽しいです。毎週水曜日には、オイスカの会員さんで組織された「ゆずり葉会」

とある日の

## メキシさんの1日

### 06:30 朝食の準備

自分で考えた献立で朝ごはんを作ります。

### 07:30 朝食

じゃがいもが入った味噌汁がおいしいと先生方にも好評です。

### 09:00 日本語の勉強

目指せN3合格！

（日々の勉強も頑張ります）



### 12:00 昼食

昼食の少し前から食堂に入り、昼食の準備も手伝います。

### 13:00 卓球

いつもは勉強の時間ですが、水曜日はゆずり葉会の方々とピンポンに汗を流します



### 15:00 畑作業

センターの畑ではじゃがいもやたまねぎなどさまざまな野菜を栽培しています。

### 16:00 夕食の準備・夕食

18時の夕食に合わせて準備を開始。センターで採れた野菜も使います。

### 18:30 お風呂・自由時間

最近は編み物に挑戦中。上手にできました！



### 20:45 点呼

基礎研修中の技能実習生と一緒に点呼。

今日も一日頑張りました！



の皆さんと一緒に卓球をします。高齢の方が多くですが、とても上手で、私はまだ勝ったことがありません。休憩時間におやつを食べながら、日本の文化などさまざまなことを教えてもらっています。また、編み物も教えていただき、少しずつ練習しています。

それから、今年の1月に能勢高校（大阪府立豊中高等学校能勢分校）の高校生たちと交流をしたことも、とても印象に残っています。この時は、日本語と英語を使って、マレーシアの有名な場所や食べ物について話しました。学生さんとの交流は、この時が初めてだったので、私の拙い日本語でもよく聞いてくれて嬉

しかったです。来日したてのころは、日本語が難しくてうまく言葉が出ませんでした。今はたくさん話すことができるのが一番嬉しいです。

残りの研修では、帰国後パン屋を開くために、パン作りも勉強していくほか、まだまだたくさん日本人と交流をして、新しいことを知りたいです。これからも頑張ります！

メキシヴェリン・エルヴィア・ビンティ・マロシン  
マレーシアサバ州出身。1999年生まれ。4姉妹の次女で、バレーボールと「コソコソ」が大好き。努力家で明るく誰とでもすぐに仲良くなれる性格で、関西研修センターの末っ子として皆のマスコットの存在となっている。

## センター所長からひとこと



オイスカ関西  
研修センター 所長

### 清水 利春

メキシは、いつも笑顔で明るく礼儀正しい、関西研修センターのアイドルです。今年の5月で来日して1年になり、現在N3レベルの日本語能力試験に向けて勉強に励んでいます。N4に至っては、来日して2ヵ月でオールA判定の好成績で合格しており、とても優秀です。

また努力家で、何にでも積極的に取り組んでいます。最近は編み物をしていて、水筒入れを見せてくれました。悪戦苦闘しながらも、地元の方々やスタッフに聞きながら一生懸命に作っていました。

料理もかなり上達しています。野菜が嫌い、母国では食べなかったそうですが、今ではほとんどの野菜を食べるようになりました。新しいことに挑戦する姿勢には、目を見張るものがあります。

「はい！ おとうさん！」という彼女の元気な返事は、こちらまで元気になるようなパワーがあります。太陽のように明るい性格で、こちらもつい笑顔になってしまいます。機会があれば、笑顔がかわいくパワフルなメキシに会いに、ぜひ関西センターに来て下さい。

—オイスカ—  
歴史さんぽ

Vol.7

今はオンラインが主流!?  
子どもたちの交流今昔

日本から送られた習字、  
絵画作品をクラスごとに  
掲示。食い入るように  
眺めるインドネシア  
の子どもたち



1978年

モンゴルと日本の  
学校をオンライン  
でつないでの交流



2023年

「写真の威力はすごい！ 記憶力のなさは天下一品の私が当時のことを思い出した」と言いながら、この写真が1978年にインドネシアのボゴール県で撮影されたものであることを教えてくれたのは、撮影当時現地に駐在していたスタッフでした。さらには、当時の開発団長（現在の駐在代表）が、帰国時に富山県の小学校から預かった絵画などを現地の学校に渡したいと考えていたところ、お世話になっていた写真屋さんが小学校を紹介してくれて絵画交流が実現し、その写真屋さんの名前が「ヘルマンさん」だったとの記憶も見事に蘇ったのだそう。

当時は、こうした物や手紙などを通

じた交流も珍しかったはずですが、「子供の森」計画が1991年に始まると、日本からのボランティア派遣や現地からの親善大使受け入れなどで、日本と海外の子どもたちが直接触れ合う機会も増えました。そんな中、コロナ禍で人の往来が途絶えた結果、今ではオンラインによる交流が盛んになっています。オンラインは渡航費もかからず、気軽に交流できるのがメリットである一方、やはり直接顔を合わせる体験を求める声も上がっています。

今年度は「子供の森」計画子ども親善大使の招へい事業が再開されます。オンラインでは味わえない交流体験が各地で実施できますように！

写真から伝わる  
さまざまな思いに  
フォーカス！





先生と一緒に  
いつも楽しく  
作っています!



見た目もかわいく! 工夫次第でもっとおいしく!  
\\ センターの手作りお菓子 //

関西研修センターでは、時折おいしい手作りお菓子が振る舞われることがあります。研修生のメキシ(本誌PI0-IIで紹介)が、家政を指導するスタッフと共に作るお菓子は見た目もかわいらしく、同センターで基礎研修に励む技能実習生や業務に勤しむスタッフたちの心を和ませます。

バレンタインデーに作ったドーナツとブラウニーは、かわいくトッピングしてモンスタードーナツに。イチゴやブルーベリーのジャムがたくさん余ってしまったときは、カップケーキに使ってさらにおいしく。最近では、センターで育てたかぼちゃを使ったパウンドケーキが、センターの会員組織である「ゆずり葉会」の方々にも大好評でした。

家政研修とは別に、研修と業務の合間を縫ってこれらのお菓子を作っていますが、今後もセンターの野菜を使ったお菓子やケーキ、パン作りにもどんどん挑戦していく予定です。これからどんな新作が生まれるのか、センター皆の楽しみになっています。



購入したパイナップルが酸っぱく、ジャムにしてケーキに入れました。酸っぱかったパイナップルが大変身して本当においしかったです。



私は“ツリーブリーザー”を愛用しています!  
出展: allbirds公式HP

SHOES



国内外のオイスカスタッフから、さまざまなジャンルの「オススメ」をご紹介します!

allbirds (オールバーズ) のシューズ

公式HP: <https://www.allbirds.jp/>



オールバーズは、2016年創業サンフランシスコ発のシューズブランドです。軽量で足にフィットし、長時間歩いても疲れにくいのが特長で、内側に通気性の良いメリノウールが使われています。リサイクルされたポリエステルやユーカリを使用し、持続可能な資源の再利用にも貢献している地球にやさしい靴です。多彩なデザインの中から好みに合った一足を見つけて、快適な歩行体験をしてみませんか。(四国研修センターS)

2023オイスカ夏募金  
ご協力お願いします

現在、2023オイスカ夏募金を実施しています。澄み渡る空、日差しを受けて輝く田んぼ、遠くに連なる青い稜線。私たちが日々あたりまえに目にしている景色も、洪水、干ばつ、海面上昇、森林火災など気候変動による自然災害の激化や環境の変化で、いずれあたりまえではなくなってしまうかもしれません。

オイスカはこうした地球規模の課題に向き合い、有機農業や森づくり、環境保全活動など自

然とともに歩む地域に根ざした活動を通して「住み続けられる未来」を実現します。

未来の子どもたちに、この先もずっと「あたりまえ」を残していくために、夏募金へのご協力をお願いいたします。

■期間 8月20日(日)まで  
■使途 オイスカの公益事業全般



夏募金専用  
サイトはこちら！  
<https://oisca.org/natsubokin2023/>

2023オイスカ夏募金 (募集期間：6月15日～8月20日)

「住み続けられる未来」  
このあたりまえを、  
ずっと。

透き通る青い空、初夏の日差しに輝く田んぼに行儀よく並んだ苗、あたりまえに広がる美しい景色。子どもたちが大人になったとき、見られるだろうか。日本の平均気温は100年で1.3℃上がり、さらに上がると予測されています。このままでは、豪雨災害や猛暑日、森林火災もさらに増えていくでしょう。今のあたりまえが、この先も残り続けるだろうか。オイスカは、地球規模の課題に向き合い、「住み続けられる未来」を目指します。



読者プレゼント！  
タイ・ラノーン県の  
エビみそ「カピ」

本誌5ページで報告したタイ・ラノーン県で進むプロジェクトで、品質改善やパッケージデザインの改良に取り組んできたエビみそ「カピ」を3名の方にプレゼントします。

アミエビを使った、タイではなじみのあるペースト状の調味料です。塩漬けのオキアミを発酵させたものだと言くと癖がありそうな印象を持たれるかもしれませんが、さまざまなお料理になじみ、とても重宝します。



チャーハンなどの味付けにも！

■応募方法／はがきかメールに住所、氏名、電話番号、今号の感想、「7月号読者プレゼント」を明記の上、左の宛先までお送りください。7月末日締切りです。

〒168-0063

東京都杉並区和泉2-17-5

公益財団法人オイスカ

「OISCA」編集部

E-mail oisca@oisca.org

Business Based Solution!

Vol.6

オイスカとのパートナーシップでさまざまな社会課題解決を目指すビジネスパーソンにインタビュー

実習生とのつながりを広げ、地域に貢献したい

秋田ダイハツ販売株式会社 取締役(営業本部長兼店舗営業部長) 理事 <sup>ひらぎ</sup> 平良木繁美



—技能実習生の受け入れを通じてどのような社会課題の解決に取り組んでいますか

秋田県は全国でも人口減少率が最も高く、地域の活性化は私たちが取り組むべき大きな課題です。初めての実習生を受け入れた日、彼らがその一翼を担う存在になるのではないかと感じる出来事がありました。実習生到着日、それまで少なかった雪がまとまって降り出し、最初の実習がお客さま用の駐車場の雪かきになってしまいました。暑い国から来た彼らが、いきなり寒い中で大変な作業をしたら、秋田を嫌いになるのではないかと不安になりました。しかし初めて雪を見る珍しさもあり、楽しみながら取り組み、駐車スペースができたことを喜んでいました。雪かきは嫌な作業だという私の固定概念が崩された出来事でした。私たちの凝り固まった考えを実習生が壊してくれることで、お客さまにもよい影響が伝わり、地域の活性化や郷土への自信を取り戻すきっかけになることを期待しています。

—今後の展望をお聞かせください。

業界としては、電気自動車の急激な普及で、大きな変革期を迎えており、不安もあります。ただ、人と人とのつながり、技術の伝承の重要性はどんな時代も変わらないはず。社内では、実習生を受け入れたことで、社員が丁寧なコミュニケーションをとるようになるなど、良い影響も出てきています。今後も実習生の受け入れを継続し、彼らとのつながりを増やして、地域の活性化、また彼らの故郷の発展に貢献していきたいです。

【会社概要】

ダイハツの自動車販売会社として、秋田県内に11店舗を構え、新車・中古車販売を行うほか、自動車の点検や整備などのサービスを提供。ダイハツグループとして、サービスエンジニアの育成を目指し、モーターゼーションが進むインドネシアやマレーシアからの技能実習生を受け入れている。

# ご支援ありがとうございます！

## 新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通り。(2023年3月1日～4月30日までの間、本部登録済分。順不同、敬称略)

### ■特別法人

【静岡県】株式会社ナナミ【大阪府】安治川鉄工株式会社【福岡県】有限会社大倉織物

### ■維持法人

【東京都】株式会社エナリス／ロクシタンジャポン株式会社【愛知県】株式会社トランソニックソフトウエア【福岡県】株式会社平和送電

### ■維持個人

【福島県】新田孔【静岡県】陳秀玉【愛知県】林文夫／神野悦太郎／小曾優子／千田一光／木村達司／松岡篤彦／蟹江隆司／山下清志／都築光哉／甲原寛士／野村信義／伊藤昌悟【香川県】川西勉／佐伯勇人／山田正芳／池田豊人【福岡県】吉田彬／税理士法人T.A.パートナーズ／小島健一

## 寄附

2023年3月1日～4月30日までにいただいた寄附は次の通り。(順不同、敬称略)

●COSMOエコ基金／フィリピン中部ルソン自然林再生プロジェクトとパプアニューギニア熱帯雨林保全プロジェクトに合わせ672万874円

●新倉和歌子(東京都)／東ティモール研修生受け入れに200万円

●CKD株式会社／海外開発協力事業と「子供の森」計画と「海岸林再生プロジェクト」に合わせ300万円

●株式会社九電工／西日本研修センターワンコイン・サポートプログラムを通じて人材育成事業に143万3000円

●ロジスティード株式会社／オイスカの活動に100万円

●一般社団法人北海道CGCみどりとこころの基金／啓発普及事業に80万円

●オイスカ国際活動促進福岡県議会議員連盟／人材育成事業に70万円

●KDDI株式会社「キボウの力ケハシ」／富士山の森づくりに53万5400円

●鈴健興業株式会社／富士山の森づくりに50万円

●前田建設工業株式会社／「子供の森」計画に50万円

●エイ・ワン少額短期保険株式会社／海外開発協力事業に47万3730円

●オイスカチャリティゴルフ実行委員会(福岡県)／人材育成事業に34万2850円

●三菱自動車工業株式会社／「パジェロの森活動」と「子供の森」計画に合わせ42万円

●東北電力労働組合／「海岸林再生プロジェクト」に40万円

●株式会社長門屋商店／「子供の森」計画に38万8829円

●株式会社静岡銀行／啓発普及事業に34万4408円

●オイスカ中華民国総会／人材育成事業に33万円

●仙台トヨベット株式会社／「海岸林再生プロジェクト」に31万8770円

●東芝労働組合府中支部／「子供の森」計画に30万円

●吉田仁(大阪府)／オイスカの活動に30万円

●オイスカ坂出推進協議会／啓発普及事業に30万円

●住友化学労働組合／「海岸林再生プロジェクト」に24万2114円

●三菱自動車STEP募金／「子供の森」計画に22万円

●株式会社ヤクルト本社／「子供の森」計画に21万5962円

●仙台東ロータリークラブ／「海岸林再生プロジェクト」に20万円

●ハートネット21／海外開発協力事業に20万円

●auエネルギー&ライフ株式会社／啓発普及事業と「子供の森」計画に合わせ18万5677円

●住江織物株式会社／オイスカの活動に17万8000円

●株式会社三井不動産ホテルマネジメント／「海岸林再生プロジェクト」に12万5000円

●株式会社宇治川商店／人材育成事業に11万1072円

●鈴木哲夫(愛知県)／人材育成事業と啓発普及事業に合わせ11万円

●丸真株式会社／「子供の森」計画に10万4777円

●株式会社ベストワン／「子供の森」計画に10万円

●トヨタモビリティパーツ株式会社宮城支社／「海岸林再生プロジェクト」に10万円

## 今月の表紙写真

Photo by Tatsuya Kano



日本の棚田にも似た風景が広がるインドネシアのチブタグラル。古来より伝統的な生活を守るこの共同体では、「米は命」との考えから販売は許されないという。観光客が増加する中、この地にとって最善の発展の形はどのようなものだろうか。



OISCA 7月号 定価160円  
 発行人／中野悦子  
 発行所／公益財団法人オイスカ  
 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号  
 TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111  
 E-mail oisca@oisca.org  
 編集：OISCA／林久美子 倉本有沙  
 アートディレクション／土肥幹人  
 デザイン／土肥幹人 坂巻貴行  
 印刷・製本／株式会社ケーブリント

本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転載を禁じます。

## 次号予告

OISCA  
 SEPTEMBER | 9  
 2023

《特集》  
 2022年度 年次報告

## 理念 — 人と育む、地球と生きる —

### Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

### Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

### Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 土から離れない
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

### Spirit

Visionを達成するために、  
私たち一人ひとりが  
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一歩ずつ積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 経験から学び進化する
- 感謝の心を持つ
- 真摯である
- へこたれない
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

● 特別会員（年額1口） 法人／10万円 個人／5万円

● 維持会員（年額1口） 法人／4万円 個人／2万円

● マンスリーサポーター 個人／月々2,000円～

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。

※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。  
※新入会年度は、入会月によって納入金額が異なります。

● 「子供の森」計画支援金（年額1口） 個人・法人／5,000円

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。  
※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは



公益財団法人  
**オイスカ**

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5  
☎(03) 3322-5161 ☎(03) 3324-7111  
E-mail [oisca@oisca.org](mailto:oisca@oisca.org)  
<https://oisca.org/>

#### 国内研修センター

中部日本研修センター 〒470-0328 愛知県豊田市助八町助八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103  
関西研修センター 〒563-0101 大阪府豊能郡豊能町吉川1120 ☎072-738-3699 ☎072-738-3901  
四国研修センター 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334  
西日本研修センター 〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

#### 国内支部

北海道支部 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8 ラルス生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685  
宮城県支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-265-3350  
首都圏支部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財)オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111  
山梨県支部 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951  
長野県支部 〒380-0838 長野県長野市584 長野県経営者協会総務部内 ☎026-235-3522 ☎026-235-3529  
富山県支部 〒939-2226 富山市下夕林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128  
静岡県支部 〒431-1115 浜松市西区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981  
愛知県支部 〒470-0328 豊田市助八町助八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103  
岐阜県支部 〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町100番地 太平洋工業㈱本社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419  
関西支部 〒541-0058 大阪府中央区南久宝寺町4-4-1 新御堂ビル ☎06-6244-2366 ☎06-6244-9422  
広島県支部 〒730-0041 広島市中区小町4-33 ㈱エネルギーL&B/バーテナス内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706  
四国支部 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334  
西日本支部 〒811-1112 福岡市早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

#### OISCA NETWORK

福 島 〒963-0534 郡山市日和田町字大窪50-8 (南根本産業内) ☎024-958-2643 ☎024-958-3741  
茨 城 〒311-0113 那珂市中央852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539  
神奈川 〒231-0003 横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター ☎080-5016-2584  
三 重 〒510-0958 三重県四日市市小吉曾1-1-7 中村建設㈱内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745  
奈 良 〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277  
岡 山 〒700-0011 岡山市北区学南町2-6-11 PORTA美容室内 ☎086-252-3027 ☎086-252-3027  
徳 島 〒770-8555 徳島市寺島本町東2-29 四国電力徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511  
愛 媛 〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682  
高 知 〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572  
佐 賀 〒840-0826 佐賀市白土2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368  
長 崎 〒858-0908 佐世保市光町109 嶺堀内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069  
熊 本 〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162  
大 分 〒870-0002 大分市浜の市1-3-7 ㈱大地企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040  
宮 崎 〒880-0843 宮崎市下原町227-6 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673  
鹿児島 〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 ㈱南日本総合サービス内 ☎099-224-3833  
沖 縄 〒902-0077 沖縄県那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881